

発足から30年 JR労働者の価値に対する 会社回答について議論を深めよう

経営側は3月15日、平成29年度の新賃金として①定期昇給を実施し、昇給係数は4とする、②基本給改定を実施し、社員の基本給に1,000円を加える、③満55歳以上の社員の基本給改定を実施し、基本給額1,000円に賃金規定附則第3項を適用した額を加える、との回答を示し、あわせて④グリーンスタッフの基本賃金に500円を加えることを口頭で回答しました。

団体交渉を通じて、社員の賃金に対する経営側の認識は、

- ① 3年連続で賃金改善を実施し、累計で基準内賃金は5,000円以上、上がっている。
- ② 平成24年に「人事・賃金制度」を改善し、55歳以上の社員の減額を段階的に解消している。
- ③ この間の社員の頑張りに応えて、賃上げを図ってきている。

と、評価する一方で「人件費も営業費用を構成する一つのコストである。安全対策を含めて、営業費用全体が上がっていることから、より一層のコストコントロールが必要である」との認識を示しています。

30年間で経常利益は4.2倍に成長



間もなくJR東日本の発足から丸30年を迎えます。すべてのJR労働者は職責を越え、まさに歯を食いしばりながら鉄道の信用と信頼を勝ちとるだけでなく、幾多の経済危機や自然災害をも乗り越え、先行き不透明な中でも黒字経営を実現させてきました。(記載のデータは東日本ユニオン調べ)

今日まで会社業績を見れば、営業利益(売上高からコストを差し引いたもの。本業で稼いだ利益)は、1987年に2,964億円であったものが、2016年度通期予想では3,730億円と約1.3倍になり、経常利益(会社活動の総決算と言われ、収益性を把握するための判断材料とされる)は766億円でスタートし、今や3,230億円と約4.2倍に成長しています。当期純利益(税金等を差し引き、最終的に会社に残る利益)に至っては約8.3倍となっています。

私たちの賃金は相応しいものとなっているのだろうか？



会社の発展と成長に比べて私たちJR労働者の基本給の伸び率は、会社発足以来30年間で約1.4倍にとどまっています。

この30年間、あるいは入社してから今日までを振り返り、私たちJR労働者の価値に対する賃金とあわせて2017年度賃金改定の回答について議論していきましょう。